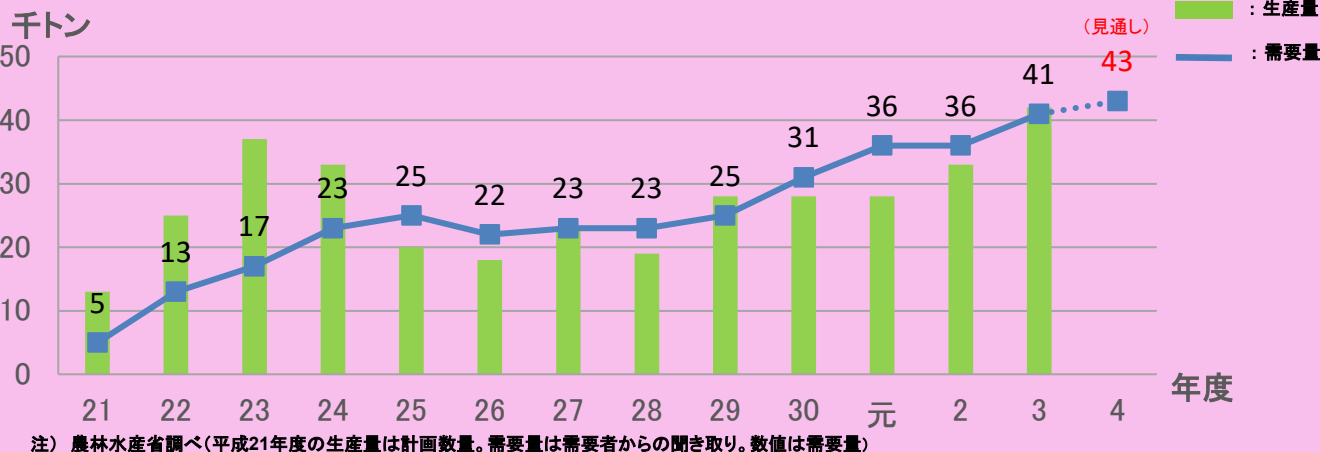


米粉用米の状況

- 米粉用米の需要量は、平成29年度までは2万トン程度で推移。米粉の特徴を活かし、グルテンを含まない特性を発信する「ノングルテン米粉第三者認証制度」や「米粉の用途別基準」の運用を平成30年から開始したところであり、米粉の需要量が拡大。
- さらなる米粉の国内普及・輸出拡大に向けて、令和2年10月にノングルテン米粉の製造工程管理JASを制定し、令和3年6月から認証を開始。2事業者が認証を取得。

米粉用米の生産量・需要量の推移



ノングルテン米粉の製造工程管理JAS

- ◆ 米粉の製造工程において、グルテンが混入する可能性のある箇所を特定し、グルテンの混入を防ぐことにより、製品のグルテン含有量が1ppm以下となるように製造工程を管理。
- ◆ ノングルテン米粉第三者認証制度による製品認証との二本柱により米粉の輸出や需要拡大に寄与。



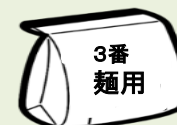
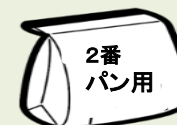
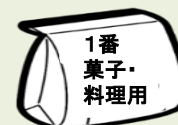
ノングルテン米粉表示

- ◆ グルテンフリー表示は、グルテンが原因となる疾患対策として、欧米で制度化されている表示制度(グルテンの含有基準値20ppm)。
- ◆ 高品質な日本産米粉をアピールするため、グルテン含有量1ppm以下の製品を対象とした表示制度である、「ノングルテン米粉第三者認証制度」の運用を平成30年6月から開始。
- ◆ ノングルテン米粉を使用した加工食品を登録し、ノングルテン米粉使用マークを付与する仕組みを令和元年9月に開始。



米粉の用途別基準

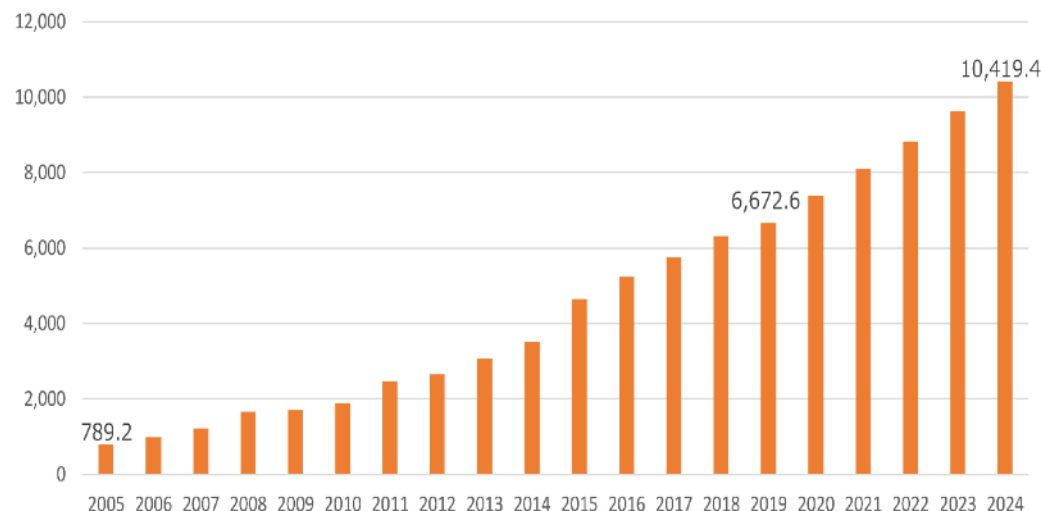
- ◆ 米粉の用途別の加工適正の統一表記(1番:菓子・料理用、2番:パン用、3番:麺用)を行う「米粉の用途別基準」を平成30年1月から開始。



米粉によるグルテンフリー食品市場の取り込みに向けて

世界のグルテンフリー市場規模

アメリカや欧州を中心に、
世界のグルテンフリー市場は順調に拡大しており、
2024年には約100億USDに達する見込み



図：世界のグルテンフリー市場

注：2020年以降は予測値
出所：Euromonitor Dataを基にJFOODOにて作図

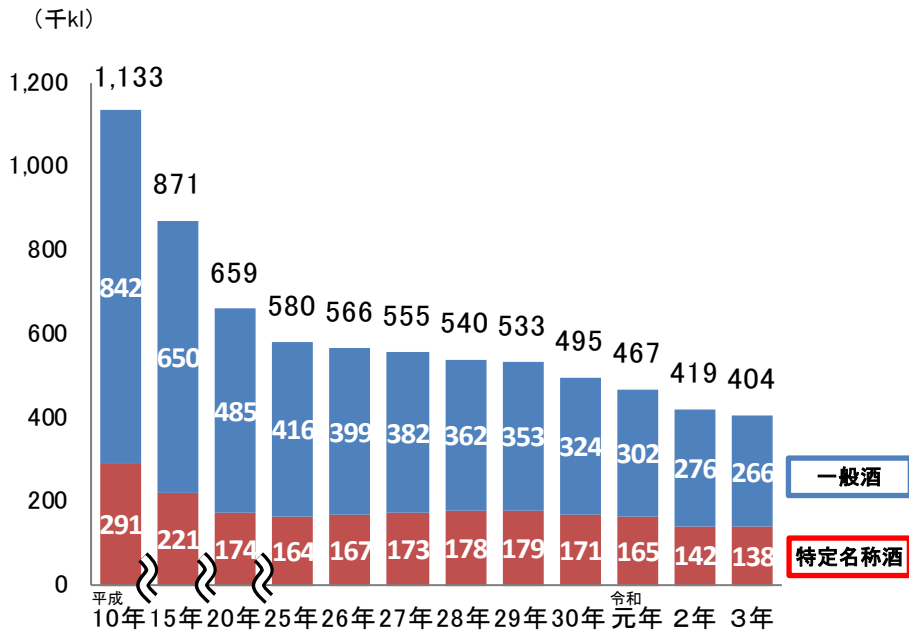
米粉によるグルテンフリー市場の 取り込みに向けて

- ◆ グルテンフリー市場は、麦類に含まれるグルテンによるアレルギー、セリアック病、グルテン過敏症、ダイエット等に対するニーズにより形成
- ◆ 米は成分としてグルテンを含んでいないため、近年、米粉やその米粉を利用した商品の製造に取り組むメーカーも増加
- ◆ 平成30年6月から、グルテンフリー表示よりも高い水準をクリアして、グルテン含有「1ppm以下」の米粉を「ノングルテン表示」でアピールする「ノングルテン米粉第三者認証制度」を開始
- ◆ また、令和2年10月には、更なる輸出拡大に向けて「ノングルテン米粉の製造工程管理JAS」を制定

日本酒の需要動向と原料米の使用量について

- 日本酒原料米の使用量については、日本酒出荷量の減少に伴い、減少傾向にある。
- 令和3年においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、酒造好適米を多く使用する特定名称酒を含め、業務用を中心に日本酒の国内出荷量が減少。
- 一方、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景にアメリカ、中国への輸出が引き続き堅調に推移するとともに、韓国、台湾への輸出は大幅に拡大しており、前年との比較において、令和3年は+47%、令和4年は+12%と増加傾向で推移。

○ 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。
注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。
2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

○ 日本酒原料米の使用量

(単位：千トン)

	平成10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産	2年産
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227	206	180
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88	83	70
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90	85	63
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49	38	47

資料：農林水産省による推計値。

○ 日本酒の輸出量の推移

(単位：kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	対前年比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	32	36	112%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	9	9	103%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	7	7	102%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	84%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	116%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	2	4	168%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	8	10	125%

資料：「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

酒造好適米の需要に応じた生産について

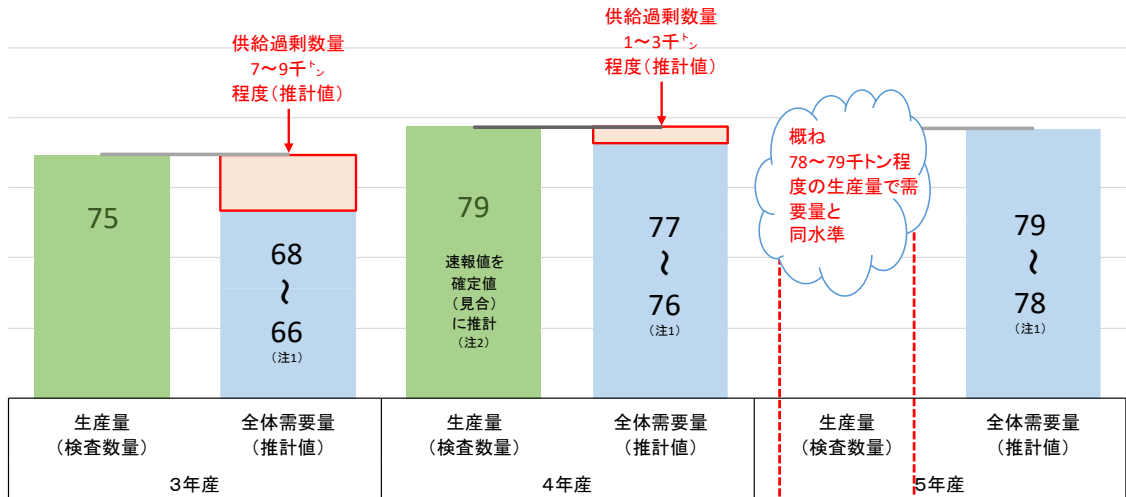
- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米等の需要量調査を実施。
- 令和4年7月に実施した需要量調査によると、
 - ① 令和3年産については、全体需要量（推計値）と生産量を比較すると、7～9千トン程度が供給過剰となっているものと推計され、
 - ② 令和4年産については、生産量が令和3年産から+4千トンの79千トン程度と生産量が全体需要量を若干上回る見込み。
 - ③ 令和5年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、78～79千トン程度の生産量とする必要があるが、自らの在庫状況並びに令和4年産の生産及び需要動向を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要。

調査の実施状況

	令和4年度
調査期間	令和4年7月
調査対象	酒造メーカー 1,389社
回答数	694社
回答率 (数量ベース)	82～84%

酒造好適米の全体需給状況の見通し（推計）

（単位：千トン）



注1： 各年産の全体需要量（推計値）は、令和4年7月に実施した需要量調査の数量ベース回収率が、令和2年産酒造好適米の全体需要量（69～71千トン）と当該調査の令和2年産の需要量（約58千トン）から約82～84%と推計されるため、各年産の調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2： 生産量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和4年産は、令和4年12月31日現在の速報値を直近3力年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

⑤ コメの輸出・輸入

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況

品 目 名		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		(参考) 主な輸出先国	
								対前年比		
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	28,685トン	32,226トン	35,531トン	36,569トン	45,959トン	53,931トン	+17%	中国 アメリカ 香港 台湾 シンガポール	
		金額	264億円	309億円	329億円	347億円	524億円	613億円		+17%
	コメ (援助米を除く)	数量	11,841トン	13,794トン	17,381トン	19,781トン	22,833トン	28,928トン	+27%	香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア
		金額	32億円	38億円	46億円	53億円	59億円	74億円	+24%	
	米菓 (あられ・せんべい)	数量	3,849トン	4,053トン	4,033トン	4,222トン	5,141トン	4,523トン	-12%	アメリカ 台湾 香港 サウジアラビア シンガポール
		原料米換算	3,272トン	3,445トン	3,428トン	3,589トン	4,370トン	3,845トン	-12%	
		金額	42億円	44億円	43億円	45億円	56億円	55億円	-2%	
	日本酒 (清酒)	数量	23,482 ㌔リットル	25,747 ㌔リットル	24,928 ㌔リットル	21,761 ㌔リットル	32,052 ㌔リットル	35,895 ㌔リットル	+12%	中国 アメリカ 香港 韓国 シンガポール
		原料米換算	13,226トン	14,502トン	14,041トン	12,257トン	18,054トン	20,218トン	+12%	
		金額	187億円	222億円	234億円	241億円	402億円	475億円	+18%	
	パックご飯等	数量	658トン	923トン	1,018トン	1,205トン	1,129トン	1,384トン	+23%	アメリカ 香港 台湾 韓国 ベトナム
		原料米換算	346トン	485トン	535トン	634トン	594トン	727トン	+22%	
		金額	3億円	5億円	5億円	7億円	6億円	8億円	+33%	
	米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量			118トン	249トン	88トン	173トン	+97%	アメリカ ドイツ タイ 台湾 フランス
		原料米換算			146トン	308トン	108トン	213トン	+97%	
		金額			0.3億円	0.7億円	0.6億円	1.0億円	+76%	
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品		数量 (原料米換算)	12,187トン	14,279トン	18,062トン	20,723トン	23,535トン	29,868トン	+27%	香港 アメリカ シンガポール 台湾 オーストラリア
		金額	35億円	42億円	52億円	60億円	66億円	83億円	+26%	

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注1：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。バックご飯等は2017年より、米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。
注2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。

商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移

- 2022年のコメの輸出数量は対前年比27%増の28,928トン、輸出金額は対前年比24%増の7,382百万円。

	2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	11,841 (+19%)	3,198 (+18%)	13,794 (+16%)	3,756 (+17%)	17,381 (+26%)	4,620 (+23%)	19,781 (+14%)	5,315 (+15%)	22,833 (+15%)	5,933 (+12%)	28,928 (+27%)	7,382 (+24%)
香港	4,128	1,016	4,690	1,160	5,436	1,372	6,978	1,796	8,938	2,118	9,880 (+11%)	2,344 (+11%)
シンガポール	2,861	642	3,161	694	3,879	802	3,696	785	4,972	1,025	5,742 (+15%)	1,201 (+17%)
アメリカ	986	320	1,282	404	1,980	543	1,989	565	2,244	625	4,459 (+99%)	1,169 (+87%)
台湾	943	350	1,173	394	1,262	411	2,004	622	1,907	575	2,532 (+33%)	716 (+25%)
オーストラリア	476	145	635	197	770	233	1,074	334	893	283	1,245 (+39%)	390 (+38%)
中国	298	97	524	211	1,007	363	1,002	321	575	219	764 (+33%)	262 (+19%)
タイ	192	51	320	81	578	145	555	145	625	162	1,045 (+67%)	256 (+58%)
イギリス	695	191	422	121	450	131	451	131	332	104	526 (+58%)	162 (+56%)
ロシア	78	31	120	43	174	64	199	72	227	79	151 (-33%)	58 (-26%)
フランス	61	27	78	32	93	40	112	49	173	72	237 (+37%)	93 (+29%)
インドネシア	72	26	1	2	90	25	4	3	247	72	39 (-84%)	14 (-81%)
カナダ	92	28	138	43	158	51	205	62	210	69	382 (+82%)	104 (+51%)
その他	959	276	1,250	374	1,504	440	1,512	431	1,490	531	1,926	613

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

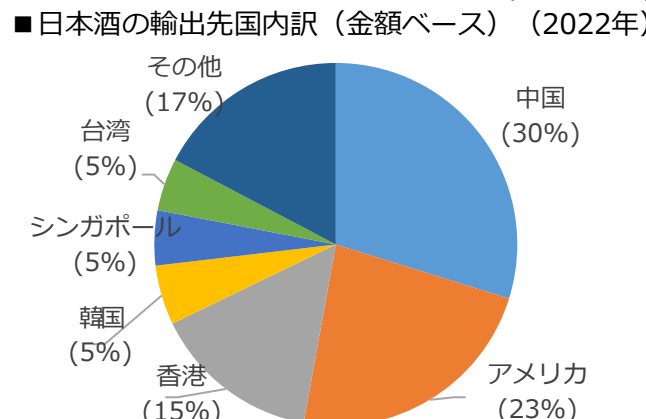
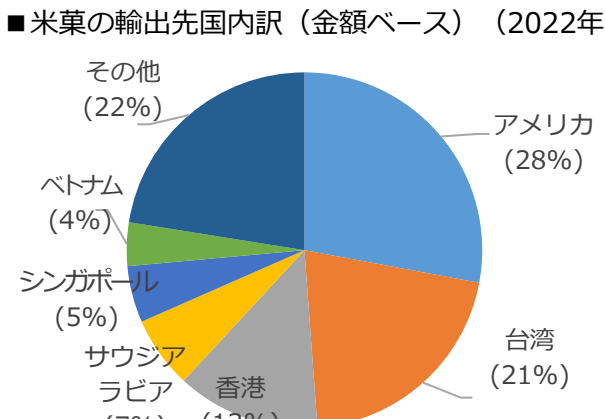
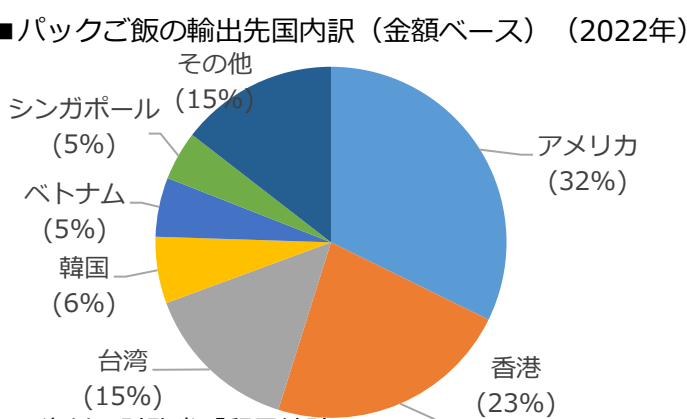
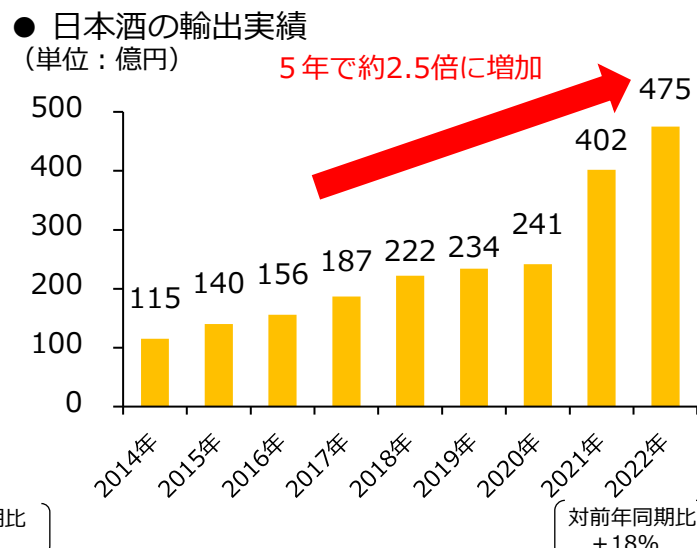
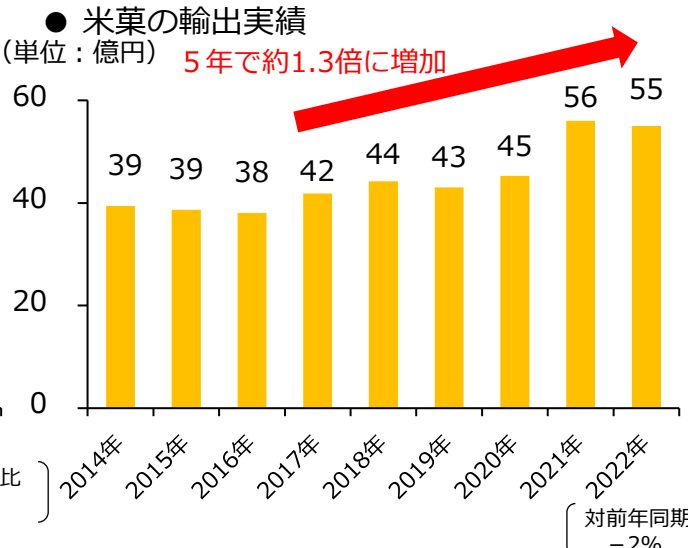
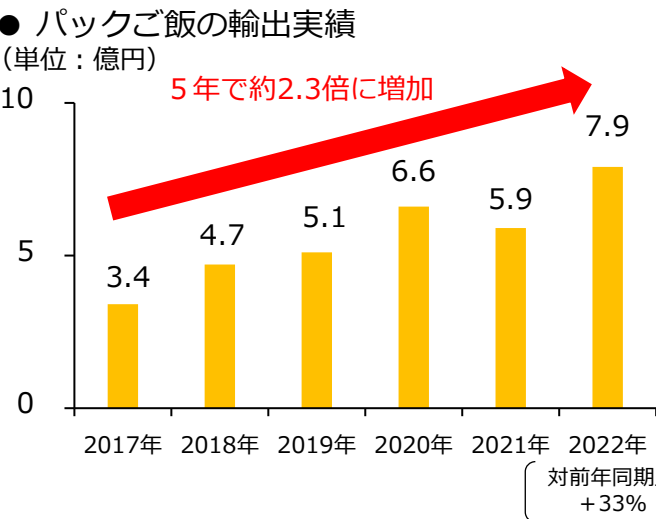
注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

注2：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

※EUは2020年2月以降の統計からイギリス分が除かれている。

パックご飯・米菓・日本酒の輸出実績の推移

- パックご飯については、輸出事業者からの聞き取りによると、海外の需要先の獲得、製造工場の稼働率向上や新設により輸出を増やしたなどの声も聞かれ、2022年の輸出金額・輸出量はともに増加。
- 米菓については、業界からの聞き取りによると、国内生産シェアの上位にいるメーカーが輸出も含め、長期間生産を中止等していたことが要因の一つとの声も聞かれ、2022年の輸出金額・輸出量はともに減少。
- 日本酒については、中国・アメリカ向け等が増加したこと等から、2022年の輸出金額・輸出量はともに増加。



※資料：財務省「貿易統計」
(注) パックご飯等は2017年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。